



WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報

No.21 August 10, 2010

QUESTION BOX SUPPLEMENT

QUESTION BOX からの挑戦

出題者：覆面子Ⅱ

「脳死は人の死か」の問題をめぐって、最近行われたある科学実験のレポートです。

【笑いのつぼ】はどこにあるのでしょうか？

Advanced life support technology now allows us to maintain the heart and lung's functionality in patients who no longer have any brain function. This ability has created legal, moral and religious conundrums. Until a generation ago, these problems were solely a domain of a few ethicists who entertained them as theoretical exercises.

However, now most states have laws concerning brain death. The American Medical Association, the American Bar Association, the American Neurological Association, etc. came together and formed a Special Task Force and have endorsed the following as a definition of death: Irreversible cessation of all function of the entire brain, including the brainstem.

If the definition of death as expressed by the AMA *et al.* has validity, it should be possible to compare this recent criteria against the widely accepted and time-tested “doornail” standard. We did just that.

We subjected a large doornail that was forged in 1986 to thorough examination, prolonged close observation, and an electroencephalogram (EEG).

Our Findings

The doornail was repeatedly examined and closely observed over a 24 hour period.

1. The nail did not exhibit any vocalizations of volitional activity.
2. The nail evidenced no spontaneous eye movements; neither could respiratory movements be detected.
3. There was no evidence of postural activity (decerebrate or decorticate).
4. The nail made no spontaneous or induced movements whatever.

Conclusion

Thus, the nail met the “physical examination” criteria of death.

(by Mike Dubik, M.D. and Brian Wood, M.D.)

● ヒント : conundrums という語に注目してください。

● 特別問題 : 出題者名も当てて下さい。

ENTER THE JOKERS (in order of arrival)

宮本 倫好

Marley was dead, to begin with. As dead as a doornail. Charles Dickens 作 *A Christmas Carol* の有名な書き出しに出会ったのは、大學1年の時でした。doornail のように死んでいた、という表現が「一体、全体どんな死に方なんだ」と、如何にも面白かった。先生は「まったく死んでいた」と訳しましたが、やはり完全にはピンとこない訳語の一つでしょう。



この語源は、私の旧師・井上義昌教授の『英米故事伝説辞典』(富山房)によると、「doornail は戸

に打ち付けた頭部が大型の鋌で、来客の度に knocker で打ち続けられるうちに、完全に磨耗して、寿命も尽きてしまった状態」をいうらしいですね。

類語表現として deaf (or dumb) as a doornail がありますが、as dead as a doornail は14世紀が初出。Shakespeare も King Henry IV で使っているようです。

本題は、人類が経験的に死とした従来の定義を doornail で象徴化したもので、最近の「脳死」の定義を皮肉り、異議を唱えているのでしょう。脳死だと、患者はまだ顔色もよく、心臓も動き、まるで今にも目をパッチリ開いて、語り出しそうな気がする場合があります。これに不可逆性という科学上の定義だけで、臓器提供を求められれば、家族はなかなか割り切れません。筆者のような保守的な宗教者の立場もそうでしょう。ここで「doornail を実際に使った実験」という常識に基づいた架空の話になっています。

出題者は？ 2, 3人可能性のある人が浮かびますが、決め手がありませんね。

岡田 茂富

My answer: A doornail has, had and will have no brain, no heart, no blood; it is typically and eternally as lifeless as a tomb-

stone. Are you going to challenge this dogma? Probably you are not, unless you are insane. So an English idiom goes, 'someone is as dead as a doornail' when they are completely and beyond doubt dead.

But two scientists M.D. and A.H. were so ignorant of the above common sense that they gilded the lily by thoroughly examining a large doornail which was forged in 1986. Yes, they are M.D. (mad doctors) and A.H. (assholes).

Who is then our Ivanhoe? I think he is Sagawa-san.

天方 博昭

医学の進歩により、法律上や倫理上や宗教上、死の定義が変化していく中で、昔から死の引き合いとして引用されている“as dead as a doornail”の doornail が本当に現在の諸基準に照らし合わせて死んでいるかどうかを大真面目に検証しているところが笑いのポイントだと思うのですが。

doornail がなぜ死んでいるのかと言うと、これは door-knocker の初期のもので「1日に何度もハンマーで力任せに叩かれるから死んでいるに違いない」と言うジョークからきたものだと、実は今回知りました。

出題者名は残念ながら分かりませんでした。

新堂 睦子



今回の問題は、確かに、おもしろうてやがて考えさせる問題でした。出典は Improbable Research です。ネットを見ますと、下記の案内が出ておりました。

Improbable research is research that makes people laugh and then think. Improbable Research is the name of our organization. We collect (and sometimes conduct) improbable research. We publish

a magazine called the Annals of Improbable Research, and we administer the Ig Nobel Prizes.

<http://improbable.com/>

イディオムに *dead as a doornail* (完全に死んだ)、というのがありますが、それを、一見科学の衣をかぶり、糞真面目に *doornail* (鋤釘) が死んだかどうかを実験する、抱腹絶倒、まさに *improbable research* です。

ネット上では、これまでの研究成果が発表されていますが、*Apples and Oranges - A Comparison* もありました。やはりイディオムで、「全く異なる二者(もの)」の意味ですが、しかつめらしく論理を組み立て、実験を経て、



リンゴとオレンジを比較、結論を導いています。

また、旧聞になりますが、*Lushiest locks in the lab* (2004) (図参照) も笑いをさそいます。

<http://www.improb.com/airchives/press/2004/thes-2004-02-27.pdf>

出題者は、Ig Nobel Prizes を研究発表テーマに選ばれました、植田さんでしょうか。

草野 淳

このジョークのカギは *dead as a doornail* という「死んでいる」ことを強調した英語の慣用語にある。「*doornail* のように死んでいる状態」と言うなら、その *doornail* そのものの特徴を *Our Findings* に従って列挙してみると、

- 1) 発声機能無し、つまり何も言葉を発しない
- 2) 眼球の動きも、呼吸している動きもなし
- 3) じーっとしたままで姿勢を変えることなし
- 4) 自発的意思などは無く、何をされても無感覚・無反応

以上の条件が揃っていれば文句なく「死の状態」だから「脳死」と断定して間違い無しというわけだ。

そういうことなら何も *doornail* (ドアに打ち付ける飾り留めの釘) でなくたって構わないではないか。例えば石ころだって同じこと反論・疑問が湧く。まさに *stone-dead* (=undeniably dead) というれっきとした表現があるのだから。

でも *doornail* が脳死判断の素材にぴったりなんで

す。英英辞典によると *doornail* は a large-headed nail と説明されているから、頭でっかちの形をした釘で脳死の話にはもってこいなのでしょう。

出題者は？ 難しく理論めかしく意味ありげにひねった問題ですので、ときおり独特のブラック・ユーモアをつぶやいてはニヒルな笑いを浮かべる服部さん！

安藤 雅彦

dead as a doornail (=unquestionably dead, 完全に死んでいる) というイディオムから、*doornail* が死を示す従来の基準を具現していると考え。

そして *doornail* を綿密に検査・診断した結果、これが専門家集団が新たに定義した死の条件に合っていると結論づけている。*doornail* (ドア釘) は無生物なので、生きている徴候などあるはずが無いのに真面目くさって議論しているのが可笑しい。

出題者は、ミスター理科系ユーモアの服部さんが本命。*dead as a doornail* の最初の使用例はシェイクスピアの「ヘンリー六世」なので、シェイクスピアの熱烈ファンの長谷川幹夫さんが対抗。

REENTER THE JESTER

カタギである本会会員の皆さま方は、ガサ入れ(警察による家宅捜査)を喰らった経験などお持ちでないと思います。おそらく唯一の経験者である私は、デカたちにさっさと段ボールに詰め込んで持ち去られ、法廷で検察側の書証として目の前に付けつけられ、反対尋問を受けた時のあのおぞましい気持ち、この度も再現されるという痛かゆい気持ちを味わいました。巧妙に隠しおおせたつもりでいたものが、ことごとく皆さまにはお見通しなのですから、参りました。とりわけ新堂女史のご慧眼には、啞然とするばかり。

ただ一点、なぜ *as dead as a doornail* なのかについては、(as+形容詞+as+名詞)のいわゆる直喩(simile)の成句によく見られる「頭韻」による口調の良さの影響があるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。(e.g. *as busy as a bee*, *as cold as ice*, *as cool as a cucumber*, *as modest as a maiden*, etc.)

なお、*as dead as a doornail* の初出が *Henry IV* かそれとも *Henry VI* かにつきましては、OEDをお持ちの方からの教えを待ちたいと存じます。

(覆面子 II or 佐川光徳)